

頁	行	改訂前	改訂後																																														
4	26	(7)「アマチュア業務」とは、金銭上の利益のためでなく、もっぱら個人的な無線技術の興味によって行う自己訓練、通信及び技術的研究の業務をいう。(施則3条1項15号)	(7)「アマチュア業務」とは、金銭上の利益のためでなく、もっぱら個人的な無線技術の興味によって行う自己訓練、通信及び技術的研究その他総務大臣が別に告示する業務を行う無線通信業務をいう。(施則3条1項15号)																																														
4	29	(8)「アマチュア局」とは、金銭上の利益のためでなく、専ら個人的な無線技術の興味によって自己訓練、通信及び技術的研究の業務を行う無線局をいう。(施則4条1項24号)	(8)「アマチュア局」とは、アマチュア業務を行う無線局をいう。(施則4条1項24号)																																														
61	別表 5.1	<p>別表 5.1 アマチュア局が動作することを許された周波数帯（総務省告示第129号）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定周波数</th> <th>動作することを許される周波数帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 1,910kHz</td> <td>1,810kHz から 1,825kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> </tr> <tr> <td>4 3,537.5kHz</td> <td>3,500kHz から 3,575kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,680kHz から 3,687kHz まで</td> </tr> </tbody> </table>	指定周波数	動作することを許される周波数帯	3 1,910kHz	1,810kHz から 1,825kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	4 3,537.5kHz	3,500kHz から 3,575kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,680kHz から 3,687kHz まで	<p>別表 5.1 アマチュア局が動作することを許される周波数帯（総務省告示第126号）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定周波数</th> <th>動作することを許される周波数帯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 1,910kHz</td> <td>1,800kHz から 1,875kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> </tr> <tr> <td>4 3,537.5kHz</td> <td>3,500kHz から 3,580kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,662kHz から 3,687kHz まで</td> </tr> </tbody> </table>	指定周波数	動作することを許される周波数帯	3 1,910kHz	1,800kHz から 1,875kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	4 3,537.5kHz	3,500kHz から 3,580kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,662kHz から 3,687kHz まで																																		
指定周波数	動作することを許される周波数帯																																																
3 1,910kHz	1,810kHz から 1,825kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで																																																
4 3,537.5kHz	3,500kHz から 3,575kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,680kHz から 3,687kHz まで																																																
指定周波数	動作することを許される周波数帯																																																
3 1,910kHz	1,800kHz から 1,875kHz まで及び 1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで																																																
4 3,537.5kHz	3,500kHz から 3,580kHz まで、 3,599kHz から 3,612kHz まで及び 3,662kHz から 3,687kHz まで																																																
62	上から 8 行目	<p>別表 5.2 アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別(告示179号) 日本国内の周波数割当 平成21年3月25日告示第179号 平成27年1月5日施行</p> <p>1 135.7kHz から 10.5GHz までの周波数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">周波数帯の別</th> <th colspan="2">使用電波の型式及び周波数の使用区別</th> </tr> <tr> <th>電波の型式</th> <th>周波数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,810kHz から 1,825kHz まで及び</td> <td>A1A</td> <td>1,810kHz から 1,825kHz まで</td> </tr> <tr> <td>1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> <td>A1A F1B F1D G1B G1D</td> <td>1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,500kHz から 3,575kHz まで、</td> <td>A1A</td> <td>3,500kHz から 3,520kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,599kHz から 3,612kHz まで及び</td> <td>A1A F1B F1D G1B G1D</td> <td>3,520kHz から 3,535kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,680kHz から 3,687kHz まで</td> <td>全ての電波の型式</td> <td>3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)</td> </tr> </tbody> </table>	周波数帯の別	使用電波の型式及び周波数の使用区別		電波の型式	周波数	1,810kHz から 1,825kHz まで及び	A1A	1,810kHz から 1,825kHz まで	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	A1A F1B F1D G1B G1D	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	3,500kHz から 3,575kHz まで、	A1A	3,500kHz から 3,520kHz まで	3,599kHz から 3,612kHz まで及び	A1A F1B F1D G1B G1D	3,520kHz から 3,535kHz まで	3,680kHz から 3,687kHz まで	全ての電波の型式	3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)	<p>別表 5.2 アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別(告示179号) 日本国内の周波数割当 平成21年3月25日告示第179号 平成27年1月5日施行</p> <p>1 135.7kHz から 10.5GHz までの周波数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">周波数帯の別</th> <th colspan="2">使用電波の型式及び周波数の使用区別</th> </tr> <tr> <th>電波の型式</th> <th>周波数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,800kHz から 1,875kHz まで及び</td> <td>全ての電波の型式</td> <td>1,800kHz から 1,810kHz まで</td> </tr> <tr> <td>1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> <td>A1A</td> <td>1,810kHz から 1,825kHz まで</td> </tr> <tr> <td></td> <td>全ての電波の型式</td> <td>1,825kHz から 1,875kHz まで</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A1A F1B F1D G1B G1D</td> <td>1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,500kHz から 3,580kHz まで、</td> <td>A1A</td> <td>3,500kHz から 3,520kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,599kHz から 3,612kHz まで及び</td> <td>A1A F1B F1D G1B G1D</td> <td>3,520kHz から 3,535kHz まで</td> </tr> <tr> <td>3,662kHz から 3,687kHz まで</td> <td>全ての電波の型式</td> <td>3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,575kHz から 3,580kHz まで 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,662kHz から 3,680kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)</td> </tr> </tbody> </table>	周波数帯の別	使用電波の型式及び周波数の使用区別		電波の型式	周波数	1,800kHz から 1,875kHz まで及び	全ての電波の型式	1,800kHz から 1,810kHz まで	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	A1A	1,810kHz から 1,825kHz まで		全ての電波の型式	1,825kHz から 1,875kHz まで		A1A F1B F1D G1B G1D	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	3,500kHz から 3,580kHz まで、	A1A	3,500kHz から 3,520kHz まで	3,599kHz から 3,612kHz まで及び	A1A F1B F1D G1B G1D	3,520kHz から 3,535kHz まで	3,662kHz から 3,687kHz まで	全ての電波の型式	3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,575kHz から 3,580kHz まで 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,662kHz から 3,680kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)
周波数帯の別	使用電波の型式及び周波数の使用区別																																																
	電波の型式	周波数																																															
1,810kHz から 1,825kHz まで及び	A1A	1,810kHz から 1,825kHz まで																																															
1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	A1A F1B F1D G1B G1D	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで																																															
3,500kHz から 3,575kHz まで、	A1A	3,500kHz から 3,520kHz まで																																															
3,599kHz から 3,612kHz まで及び	A1A F1B F1D G1B G1D	3,520kHz から 3,535kHz まで																																															
3,680kHz から 3,687kHz まで	全ての電波の型式	3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)																																															
周波数帯の別	使用電波の型式及び周波数の使用区別																																																
	電波の型式	周波数																																															
1,800kHz から 1,875kHz まで及び	全ての電波の型式	1,800kHz から 1,810kHz まで																																															
1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで	A1A	1,810kHz から 1,825kHz まで																																															
	全ての電波の型式	1,825kHz から 1,875kHz まで																																															
	A1A F1B F1D G1B G1D	1,907.5kHz から 1,912.5kHz まで																																															
3,500kHz から 3,580kHz まで、	A1A	3,500kHz から 3,520kHz まで																																															
3,599kHz から 3,612kHz まで及び	A1A F1B F1D G1B G1D	3,520kHz から 3,535kHz まで																																															
3,662kHz から 3,687kHz まで	全ての電波の型式	3,535kHz から 3,575kHz まで(注1) 3,575kHz から 3,580kHz まで 3,599kHz から 3,612kHz まで 3,662kHz から 3,680kHz まで 3,680kHz から 3,687kHz まで(注2)																																															
88	別表 7.2	<p>別表 7.2 世界のコールサイン</p> <p>◎コールサインの組立 コールサインの構成は国によって変わることがありますが、日本のアマチュアのコールサインは、下記のように構成されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">プリフィックス</th> <th rowspan="2">サフィックス</th> </tr> <tr> <th>国際呼出符字列</th> <th>エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JO</td> <td>1</td> <td>ZRD</td> </tr> </tbody> </table> <p>呼出符号の構成は、国際電気通信連合（International Telecommunication Union、ITU）で定められています。各国ごとのプリフィックス割当は、国際呼出符字列分配表に基づいています。 《国際呼出符字列分配表の一例》 日本：JAA-JSZ、7JA-7NZ、8JA-8NZ 米国：KAA-KZZ、WAA-WZZ カナダ：CFA-CKZ、CYA-CZZ、VAA-VGZ、VOA-VOZ、XJA-XOZ オーストラリア：AXA-AXZ、VHA-VNZ、 英国：GAA-GZZ、VPA-VQZ、ZBA-ZJZ アイルランド：EIA-EJZ ドイツ：DAA-DRZ、Y2A-Y9Z フィンランド：OFA-OJZ</p>	プリフィックス		サフィックス	国際呼出符字列	エリア	JO	1	ZRD	<p>別表 7.2 世界のコールサイン</p> <p>◎コールサインの組立 コールサインの構成は国によって変わることがありますが、日本のアマチュアのコールサインは、下記のように構成されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">プリフィックス</th> <th rowspan="2">サフィックス</th> </tr> <tr> <th>国際呼出符字列</th> <th>エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JO</td> <td>1</td> <td>ZRD</td> </tr> </tbody> </table> <p>呼出符号の構成は、国際電気通信連合（International Telecommunication Union、ITU）で定められています。各国ごとのプリフィックス割当は、国際呼出符字列分配表に基づいています。 《国際呼出符字列分配表の一例》 日本：JAA-JSZ、7JA-7NZ、8JA-8NZ 米国：KAA-KZZ、WAA-WZZ カナダ：CFA-CKZ、CYA-CZZ、VAA-VGZ、VOA-VOZ、XJA-XOZ オーストラリア：AXA-AXZ、VHA-VNZ、 英国：GAA-GZZ、VPA-VSZ、ZBA-ZJZ アイルランド：EIA-EJZ ドイツ：DAA-DRZ、Y2A-Y9Z フィンランド：OFA-OJZ</p>	プリフィックス		サフィックス	国際呼出符字列	エリア	JO	1	ZRD																														
プリフィックス		サフィックス																																															
国際呼出符字列	エリア																																																
JO	1	ZRD																																															
プリフィックス		サフィックス																																															
国際呼出符字列	エリア																																																
JO	1	ZRD																																															

		<p>フランス：FAA-FZZ、HWA-HYZ、THA-THZ、TKA-TKZ、TMA-TMZ、TOA-TQZ、<u>TVA-TXZ</u>、TWA-TWZ</p> <p>イタリア：IAA-IZZ</p> <p>韓国：DSA-DTZ、<u>HLZ-HLZ</u></p> <p>中国：BAA-BZZ、<u>XSA-ZZZ</u>、<u>3HA-3TZ</u>、</p> <p>ペルー：OAA-OCZ、OBA-OBZ、4TA-4UZ</p> <p>◎最初の一文字でわかる国 コールサインの最初の一文字で特定できるのは次の各国です。</p> <p>B-----中国 F-----フランス 2・G・M-----英国 I-----イタリア K・N・W-----米国 R-----ロシア</p>	<p>フランス：FAA-FZZ、HWA-HYZ、THA-THZ、TKA-TKZ、TMA-TMZ、TOA-TQZ、<u>TVA-TXZ</u></p> <p>イタリア：IAA-IZZ</p> <p>韓国：DSA-DTZ、<u>HLA-HLZ</u></p> <p>中国：BAA-BZZ、<u>XSA-XSZ</u>、<u>3HA-3UZ</u>、</p> <p>ペルー：OAA-OCZ、4TA-4TZ</p> <p>◎最初の一文字でわかる国 コールサインの最初の一文字で特定できるのは次の各国です。</p> <p>B-----中国 F-----フランス 2・G・M-----英国 I-----イタリア K・N・W-----米国 R-----ロシア</p>
108	14	、記号にヘンリー <u>H</u> 、	、記号にヘンリー <u>H</u> 、
127	1	2π [<u>rad/s</u>] (ラジアン) となり、	2π [<u>rad</u>] (ラジアン) となり、
129	17	<p>交流 I [A] を流したときは、 $W = (\overline{I^2 R}) \times t$ [J] (3-8) となります。</p> <p>したがって、第 3.6 図のように交流電流の実効値 E 及び I は、瞬時値の 2 乗の平均値の平方根となります。</p> <p>すなわち、$\sqrt{I^2 \text{の平均}}$ というのは、図の面積 S に該当しますから、 $\sqrt{I^2 \text{の平均}} = \text{面積 } S / \pi$ となります。</p>	<p>交流 i [A] を流したときは、 $W = (\overline{i^2 R}) \times t$ [J] (3-8) となります。</p> <p>したがって、第 3.6 図のように交流電流の実効値 E 及び I は、瞬時値の 2 乗の平均値の平方根となります。</p> <p>すなわち、$\sqrt{i^2 \text{の平均}}$ というのは、図の面積 S に該当しますから、 $\sqrt{i^2 \text{の平均}} = \text{面積 } S / \pi$ となります。</p>
172	14	そこで、ベースとエミッタ間に V_{BE} なる電圧を常時加えてやり、そこに交流信号を重畳すると、 V_{BE} 分だけ、かさ上げの状態になりますから、	そこで、ベースとエミッタ間に V_{BB} なる電圧を常時加えてやり、そこに交流信号を重畳すると、 V_{BB} 分だけ、かさ上げの状態になりますから、
173	4	～特性曲線で直線部分になる V_{BE} の点を最適入力電圧に選び、	～特性曲線で直線部分になる V_{BB} の点を最適入力電圧に選び、
173	7	このように、入力電圧に対して V_{BE} を選択し、そこを動作点とすると、	このように、入力電圧に対して V_{BB} を選択し、そこを動作点とすると、
173	20	また、 V_{BE} の動作点を特性曲線の立上り点に設定すると、	また、 V_{BB} の動作点を特性曲線の立上り点に設定すると、
173	第 4.33 図	<p>第 4.33 図 A 級増幅</p>	<p>第 4.33 図 A 級増幅</p>
173	第 4.34 図	<p>(a) B 級増幅 (b) C 級増幅</p> <p>第 4.34 図 B 級、C 級増幅回路</p>	<p>(a) B 級増幅 (b) C 級増幅</p> <p>第 4.34 図 B 級、C 級増幅回路</p>
200	6	電流 I_{cc}	電流 I_c
200	13	電流 I_{cc}	電流 I_c

200	第 6.3 図	<u>-Icc</u>	(削除)
239	14	<p>10 を順次 2 で割る 余り</p> <pre> 2) 10 --- 0 --- 2) 5 --- 0 --- 2) 2 --- 0 --- 2) 1 --- 0 --- 1 --- 1 </pre> <p>(余りを逆順に読むと、1, 0, 1, 0 となる)</p>	<p>10 を順次 2 で割る 余り</p> <pre> 2) 10 --- 0 --- 2) 5 --- 0 --- 2) 2 --- 0 --- 2) 1 --- 0 --- 1 </pre> <p>(余りを逆順に読むと、1, 0, 1, 0 となる)</p>
292	5	(1) EMS (Electro Magnetic <u>Susceptibility</u>)	(1) EMI (Electro Magnetic <u>Interference</u>)
292	10	(2) EMC (Electro Magnetic Compatibility)	(2) EMS (Electro Magnetic <u>Susceptibility</u>)
292	12	～、イミュニティ (immunity) と表現し、	～、イミュニティ (immunity) と表現し、
292	14	自身の動作が阻害されないようにする <u>というもので、電磁環境適合性、電磁両立性など</u> といいます。	自身の動作が阻害されないようにする <u>というものです。</u>
294	第 9.1 表	—	(第 9.1 表の表中、「映像周波数」及び「音声周波数」の列を削除する。)